

自分スタイルの確立！ 通信制

可能性への挑戦！ 全日制

2025.09.22

「挑戦と進化」の2週間がスタート！

「第2回 チャレンジ!THE 授業 Week×2」始動

- 生徒と教員、そしてAIが共に創る、新しい学びの形へ -



本校独自の教育プログラム「（第2回）チャレンジ!THE 授業 Week×2」が本日より全校一斉にスタートしました。これは、生徒と教員が一体となって「授業」の可能性を追求し、未来を切り拓く力を育むための特別な2週間です。

主役は、生徒と教員一人ひとり

本プログラムは、「挑戦」の1週目（9月22日～26日）と、そこでの学びを活かした「進化」の2週目（10月6日～10日）で構成されています。

主役は、教員と生徒一人ひとりになります。教員は日々の授業に新たな工夫を、生徒は学習への向き合い方に新たな目標を持って臨みます。この「挑戦→振り返り→進化」というサイクルを通じて、学校全体で持続的に成長していくことを目指します。

最先端技術「生成AI」を学びのパートナーに

今回は、新たな試みとして「生成AI（Classiを含む）」を積極的に活用します。

教員にとっては、授業準備や教材研究の強力なサポーターとして。生徒にとっては、探究活動や創造性を飛躍させる心強いパートナーとして。最先端の技術に触れ、それを使いこなす経験は、変化の激しい社会を生きる上で大きな力となるはずです。

「授業で変わる、君と私。」

この取り組みの最も大切な目的は、参加する一人ひとりが自身の成長を実感することです。

「学ぶことの楽しさ」を再発見し、新しい自分に出会う2週間。この経験が、生徒の知的好奇心を刺激し、学校生活をさらに豊かにするエネルギーとなることを期待しています。

すでに始まっているチャレンジ!「英語研究Ⅰ」

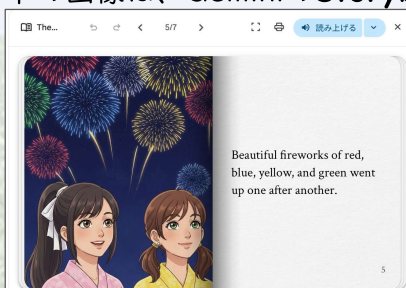
9月19日、「英語研究Ⅰ」の授業において、「夏休みの思い出」というテーマで生徒一人ひとりが**Geminiに描かせた画像やStoryBookを用いて、英語で発表**しました。右は、その発表の様子です。早速写真に写っている椎名さんに聞いてみました。

Q. 画像制作の過程を教えてください。

最初は英文を読み込ませて作ってみたのですが、イメージとは全く違う「大人の人が遊んでいる」ような画像ができてしまいました。そこから、「高校生の女子でお願いします」のように、どんどん具体的な情報を追加していくことで、最終的にこのイメージ通りの画像になりました。高円寺の商店街をテーマに、2枚の画像を1つに表示するように指示して作っています。とにかく聞いてる人を飽きさせないように、感情を込めて話すことを意識しました。



下の画像は、GeminiのStorybook機能を利用して発表した例です。発表した熱田さん（右下）に聞いてみました。



Q. Storybookを使おうと思ったきっかけは何ですか？

他の人が使っているのを見て「めっちゃ可愛いな」と思って、私も使ってみたくて思いました。

Q. プロンプトはどのように入れましたか？

最初に「お祭り楽しい」といった簡単な日本語で指示を出して画像を作ってもらいました。その後に、改めて「英語でお願い」と依頼して完成させました。





通信制課程卒業生大活躍！

～ 大学で・・・飛び級!? 3年連続首席! ～



今夏開催された通信制課程同窓会の席で二人の卒業生から話を伺いました！

「好き」を原動力に未来を拓く

－ 大学3年次終了後、大学院へ。卒業生が語る、通信制で培った主体的な学び －

本校通信制を卒業後、日本大学生産工学部へ進学し、3年次から大学院へ飛び級で進学を果たした荒木さん。その躍進の源は、本校で培った学びの姿勢と探究心にありました。在校生の未来を拓くヒントを探ります。

温かい環境が学びの土台に

荒木さんにとって高校時代の一番の思い出は、先生方や友人との楽しい時間です。「面倒見の良い先生方のおかげで、不登校を経験した私も学校が楽しみになりました」と語ります。多彩な学校行事も経験し、温かい人間関係の中で学びの土台を築きました。

興味を追求し、挑戦が自信に

「化学」と「ものづくり」への興味から、ものづくりに強い日本大学生産工学部応用分子化学科へ進学。「学生のうちに大きなことを成し遂げたい」という思いから大学院への飛び級に挑戦し、「困難を乗り越えて目標を達成した経験が、大きな自信につながった」と言います。

「自学自習」が今の学びの礎

現在の活躍を支えるのが、通信制で培った「自学自習」の姿勢です。レポート課題を通して、不明点を自ら調べ、先生に質問して解決する主体的な学びが習慣化。その力が、大学での高度な研究活動の礎となっています。

在校生へのメッセージ

最後に、荒木さんから後輩へメッセージをいただきました。
「卒業を目指すことと同じくらい、自分の好きなことや興味のあることに挑戦し、探すことも大切です。そうした一つひとつの経験が、自分だけの未来を拓く力になると信じています」



荒木さんの歩みは、主体的な学びと挑戦が未来の可能性を大きく広げることを示してくれています。

「走り続ける」その先に道は拓ける

－ 城西国際大学で3年連続学部首席！卒業生 石毛さんが語る学びの軌跡 －

通信制卒業生の石毛さんが、進学先の城西国際大学で3年連続学部首席という快挙を成し遂げました。通信制で培った力をどのように活かし、輝かしい成果に繋げたのか。その努力の軌跡と後輩へのメッセージを伺いました。

探究心と計画性が大きな強みに

3年連続学部首席という偉業の原動力は、「レポートを誰が読んでも分かりやすく書くこと」への探究心でした。読者の視点で構成を工夫し、講義では先生の言葉一つひとつを熱心にメモするなど、真摯な姿勢で学業に取り組んでいます。現在は、自身のキャリアも見据え「厚生年金の適用拡大」をテーマに卒業論文を制作中です。

この学びの姿勢を支えたのは、高校時代に培った卓越した計画性です。「最初の数ヶ月でレポートを全て終わらせ、残りを大学受験の勉強に集中させた」という独自の工夫で、自学自習を乗り越えました。この経験で培った自己管理能力は、すべてを自身で行う大学生活で、大きな強みになっていると語ります。

後輩へ贈る力強いエール

多くの困難を乗り越えてきた石毛さんから、後輩へ力強いエールが送られました。
「悩んでいるだけでは何も変わりません。今は不安かもしれませんが、諦めずにひたむきに走り続けることが、未来を切り拓く一番の力になると信じています」。

また、進学を考える中学生には「本校はアットホームで先生方のサポートも手厚い。皆さんの選択肢の一つになれば嬉しいです」とメッセージをくれました。

卒業後の夢は海外旅行とのこと。「ドイツのクリスマスマーケットに是非行ってみたいと思っています。」と語っていました。ひたむきな努力で道を拓く先輩の、今後の更なる活躍が期待されます。

